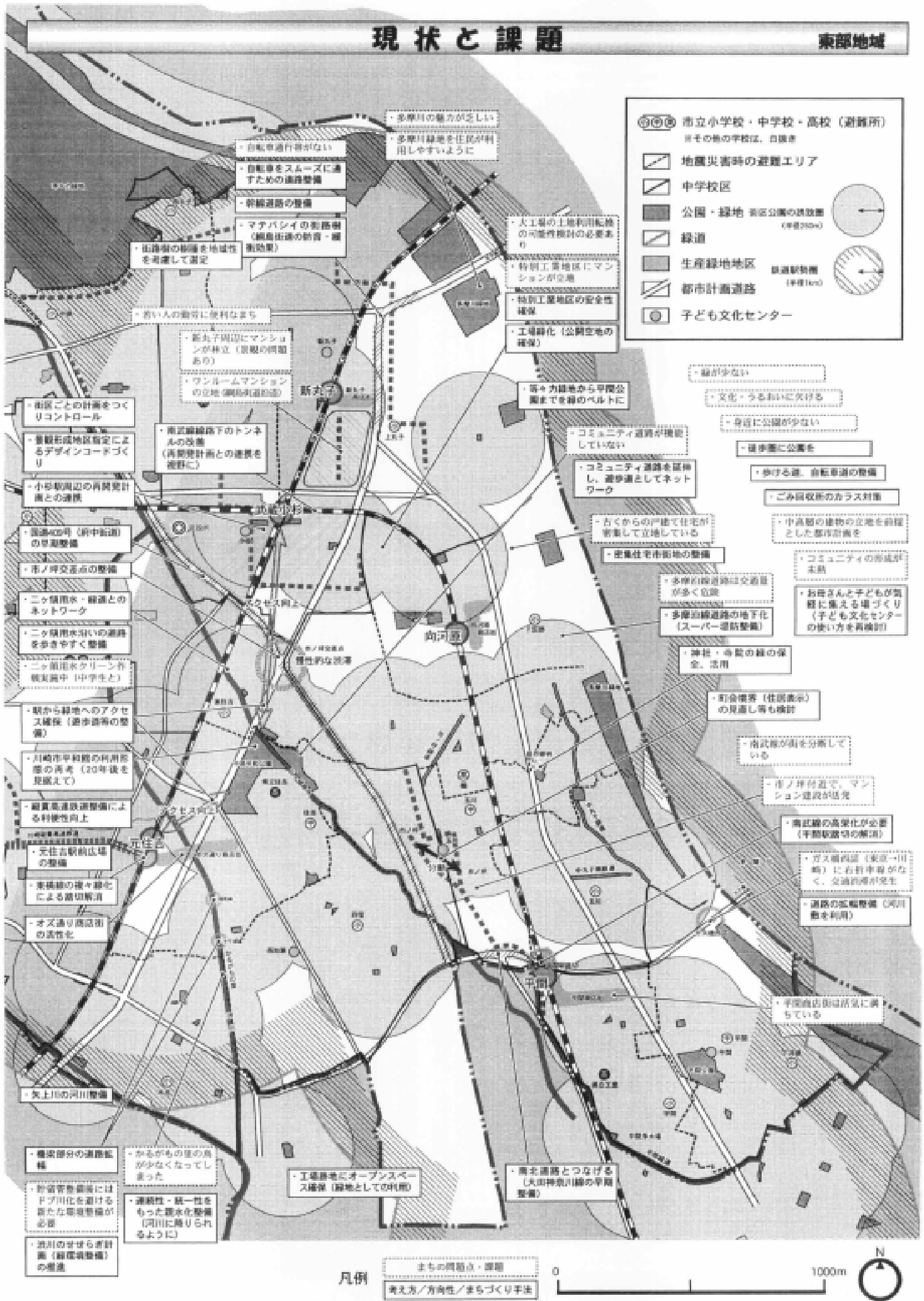


(4) 地域の現状と課題

・地域の現状と課題を整理すると次のようになります。

- 小杉駅周辺（新丸子東3丁目、上丸子など）に立地する大規模工場の中には、工場の移転計画が進行しているものがあり、小杉駅南部地区（東京三菱グラウンド跡地）と中丸子地区（不二サッシ跡地）において、広域的な都市機能拠点としての市街地整備をめざした再開発地区計画づくりがすすめられています。小杉駅周辺地区を市の第3都心にふさわしく、活気があり、質の高いまちとするため、市民が主体となって、ゆとりある利便性の高いまちを実現していくことが必要となります。
- 小杉駅周辺の再開発にあたっては、鉄道敷を越えた面的なつながりをもった一体的なまちづくり・景観づくりが求められるとともに、等々力緑地や多摩川緑地とのつながりを重視したうるおいと風格のある街なみづくりをすすめることも求められます。
- 東部地域の東側には多摩川が流れています。しかし、多摩沿線道路を安全に横断できないため、この道路によって、市街地と多摩川河川敷は分断され、多摩川という資源を有効に活かしたまちづくりがすすめられているとはいえません。このため、小杉、新丸子、向河原、平間の各駅から多摩川へのアクセス性を向上させ、多摩川を感じることでできるまちづくりをめざすことが必要です。
- 東部地域の北東から南東方向へ二ヶ領用水が流れています。また、二ヶ領用水から分かれる渋川は、元住吉駅付近を通過して市街地を貫くように南方向へ流れています。これらの河川の一部には、人が降りられるような階段が設置されていたり、河川沿いにコミュニティ道路や緑道が整備されていたりしますが、これらは必ずしも地域住民を河川に惹きつけるような魅力ある整備になっているとはいえません。このため、二ヶ領用水と渋川、矢上川という市街地の中の水資源を有効に利用し、これらの河川・水路を軸としたやすらぎやうるおいといった魅力ある住宅地を形成することが必要です。
- 東部地域の南側に位置する大倉町や荏宿南部、西加瀬南部には、大規模工場が立地しています。また、市ノ坪の府中街道沿いにも中小の町工場が点在しています。精密部品の試作工場や大規模工場等は、中原区の産業を支えてきた貴重な工業資源であり、これらと共生したまちづくりをめざすことが必要です。

- 東部地域の生活を支える道路としては、市の横断方向の綱島街道と縦貫方向の南武沿線道路があります。このうち、道路の拡幅整備がすすめられている綱島街道においては、その沿道に中高層マンションが建ち並び、沿道景観が都市的なものになりつつあります。このため、特に綱島街道沿道において、デザインコードなどを活用した連続性とうるおいのある街なみ景観を形成していくことが求められます。
- 東部地域には、鉄道数が多く存在します。このうち、JR南武線と横須賀線は、高架化がなされておらず、これらの鉄道数により市街地が分断されています。また、ガス橋通りがJR南武線と交差する平間踏切では、慢性的な交通渋滞が発生しており、鉄道の高架化または、JR線をまたぐ都市計画道路の早期整備による対応が望まれます。
- 東急東横線とJR南武線が交差する小杉駅だけでなく、計画中の川崎縦貫高速鉄道の開通（第1期）により、その起終点となる元住吉駅の拠点性が今以上に高まることが予想され、この東急東横線の2駅においては、多様な交通の交わる場所としての活気あるまちづくりが求められます。また、その他の鉄道駅周辺地区については、商店街の活性化を図るとともに、様々な要求をもつ市民が気軽に集えるコミュニティ施設を配置するなど、生活利便性の高いまちづくりをすすめることが求められます。
- 東部地域は多摩川に接していることから、多摩川の氾濫による被害が起きないとは限りません。また、市街地内の河川・水路の氾濫による水害も懸念されます。さらに、古くからの住宅地の中には、住宅が密集して建ち並んでいるエリアが存在し、都市の不燃化も必要です。



2. 東部地域の目標と方針

(1) 東部地域の地域構造

- ・東部地域の土地利用は、鉄道駅を中心とした5つの生活圏をベースとしながら、川崎市の第3都心となる小杉駅周辺の拠点と新丸子駅、元住吉駅、向河原駅及び平間駅周辺の地域に密着した生活・文化拠点を核として、住宅系土地利用を中心とした拠点到近接する生活地区、幸区との区界付近等を中心に立地する大規模工場との共生をめざす住工生活生活地区で構成するものと考えます。
- ・また、まちの自然的資源を有効に活かすため、二ヶ領用水や渋川、矢上川を有効に活用して、地域内を緑道等でネットワークするとともに、多摩川に近いエリアにおいては、多摩川とのアクセス性の向上を図ったまちづくりをすすめるなど、水と緑を感じながら歩いて暮らせる地域の形成が必要です。
- ・幹線交通軸については、市の横断方向の幹線交通軸である綱島街道と縦貫方向の幹線交通軸である府中街道、尻手黒川道路、東京からの交通が流入してくるガス橋通りにより、通過交通をスムーズに流す道路ネットワークの形成を図ることが必要です。また、区域内道路については、それを利用する地域住民にとって使いやすい道路としての整備を優先し、歩行者の安全に配慮した道路づくりをすすめることが求められます。

① 都市機能・生活拠点(第3都心)

- ・小杉駅周辺地区を「都市機能・生活拠点(市の第3都心)」と位置づけ、再開発事業に併せて、商業、文化、遊び、居住、職などの複合的な都市機能の集積による魅力あるまちづくり・景観づくりをめざす地区とします。

② 生活・文化拠点

- ・新丸子駅、元住吉駅、向河原駅及び平間駅周辺地区を「生活・文化拠点」と位置づけ、地域住民の生活に密着した生活利便性の高いまちづくりをめざす地区とします。

③ 拠点近接生活地区

- ・都市機能・生活拠点と生活・文化拠点到近接して広がる住宅市街地を「拠点近接生活地区」と位置づけ、高い利便性と良好な居住性を兼ね備えた都市型住宅市街地の形成をめざす地区とします。

④ 住工共生生活地区

- ・大倉町や西加瀬、荻宿などにひろがる大規模工場や市ノ坪周辺の中小工場と周辺の住宅市街地を「住工共生生活地区」と位置づけ、両者が共生・調和した市街地形成をめざす地区とします。

⑤ 幹線道路沿道エリア

- ・特に綱島街道沿道の地区を「幹線道路沿道エリア」と位置づけ、快適で魅力ある道路空間づくりをめざす地区とします。

■東部地域の地域構造図

